

まえがき

2010年11月9日に札幌コンベンションセンターにおいて、日本森林技術協会北海道支部連合会、木材学会北海道支部との共催により、第59回日本森林学会北海道支部大会が開催されました。大会の開催・運営と論文集の刊行にご尽力された北海道支部会幹事会・森林総研北海道支所幹事、編集委員、会場運営に携わられた北海道森林科学科の各位に深く感謝の意を表します。また、日本森林学会会長、日本森林技術協会専務理事、同協会北海道支部連合会会長の皆様には、ご多忙中にもかかわらず来賓・共催者としてご臨席ならびにご祝辞をいただき、心より御礼申し上げます。

大会は例年通り、総会、特別講演会、会員による研究発表、懇親会が行われ、このうちポスターによる研究発表および懇親会は木材学会北海道支部と合同で行いました。

総会では、日本森林学会北海道支部の組織・名称の変更が決定されました。日本森林学会の法人化にともない、本会の支部組織としての維持が困難になったため、第58回総会で本会は独立した任意団体として新たに組織することとしましたが、今回の総会で、会の名称を北方森林学会、論文集の名称を北方森林研究とすることとしました。会の名称・組織の変更は2011年4月1日より、論文集名の変更は次年度からとし、号数は以前から引き継ぐこととしました。なお日本森林学会との協力・連携関係は組織・名称の変更に関わらず従来と同様に続けていくこととされています。

また、新しい取り組みとして講演会支援事業が決定されました。本会の趣旨にあった講演会を支援することによって、会員へのサービス向上と本会の発展に役立てたいと考えております。詳しくはホームページでご覧下さい。

特別講演会は、「人工林を広葉樹林へと誘導する」をテーマとし、現在進行中の研究プロジェクト「広葉樹林化のための更新予測および誘導技術の開発」の研究成果を発表していただきました。森林総合研究所の上田明良氏を座長に、田内 裕之氏（森林総研四国）から「広葉樹林化技術開発への取り組み－目標林型と更新基準－」、今 博計氏（道総研林試）から「北海道における広葉樹林化の可能性」、明石 信廣氏（道総研林試）から「広葉樹林化におけるエゾシカ食害のリスク」のご講演があり、広葉樹林技術開発の方向性、広葉樹の天然更新プロセス、エゾシカ食害の判定手法などについて最新の研究結果をご報告いただきました。討論では、広葉樹林化の重要性が改めて確認され、また克服すべき技術的課題について議論が行われました。

会員による研究発表件数は口頭・ポスター合わせて61件でした。

支部会60周年を迎え、記念出版の作業が進んでいるほか、2011年度の大会では記念シンポジウムも予定しております。森林・林業再生プランの中で、今後の森林管理・林業において専門家の役割が高く位置づけられ、専門家育成が喫緊の課題とされるなかで、本会の役割もますます重要となると思います。本会のさらなる発展のため、会員諸氏のご協力をお願い申し上げます。

2011年2月

日本森林学会北海道支部
支部長 柿澤宏昭